東京2020D&Iアクション
-誰もが生きやすい社会を目指して-

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

2021年8月13日

東京2020D&Iアクションとは

東京2020大会は、**「多様性と調和」**が大会の基本コンセプトです。大会は、スポーツを通じて、**多様な個性を認め合い、違いを活かしながら、誰もが自分らしさを発揮できる社会**を目指す場です。

東京2020大会をきっかけとして、**私たちの社会と未来に向けて、私たちに何ができるかを考え、それぞれが大会後も続けていく行動を宣言するムーブメント**「東京2020D&I*アクション」を実施します。

アスリートをはじめとする多くの人の思いと行動が、社会を変える力になります。ぜひ、あなたのアクションを言葉にしてください。

＊D&I（ダイバーシティ＆インクルージョン）

ダイバーシティは「多様性」「一人ひとりのちがい」、インクルージョンは「包括・包含」「受け入れる・活かす」という意味を持ちます。多様性は、年齢・世代、人種、国籍、心身機能、障がいの有無、性別、性自認、性的指向、宗教・信条や価値観だけでなく、キャリアや経験、働き方、企業文化、ライフスタイルなど多岐に渡ります。多様な人々が互いに影響し合い、異なる価値観や能力を活かし合うからこそ、不平等や格差の解消に働きかけ、新しい価値を創造していくことにつながります。

東京2020D&Iアクションへの参加方法

・「アクションを書く用紙」をA4で印刷してください。（白い紙でも構いません。）

・サインペンなどでダイバーシティ&インクルージョンに関するアクションを１つ書いた自撮り写真を、SNSで投稿してください。

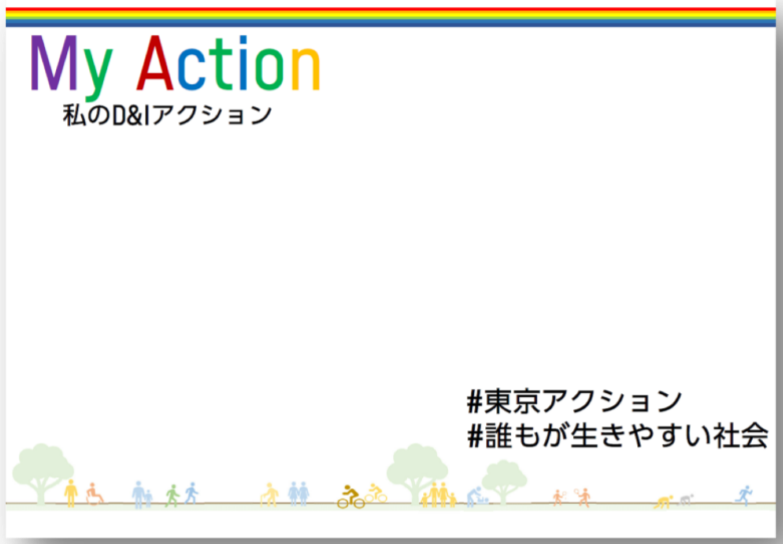
※ハッシュタグは「#東京アクション」「#誰もが生きやすい社会」としてください。

※アクションをテキストで投稿するだけでも構いません。

・アクションは自由に記載できます。

・投稿いただいたアクションは、組織委員会のウェブサイトやSNSで紹介させていただくことがあります。

・ご参加の期間は2021年8月18日から12月末までを予定していますが、特にパラリンピック開幕前の8月23日までの投稿にご協力をお願いします。



アクションを書く用紙
（様式は別にあります）

東京2020D&Iアクションの投稿イメージ

小谷実可子

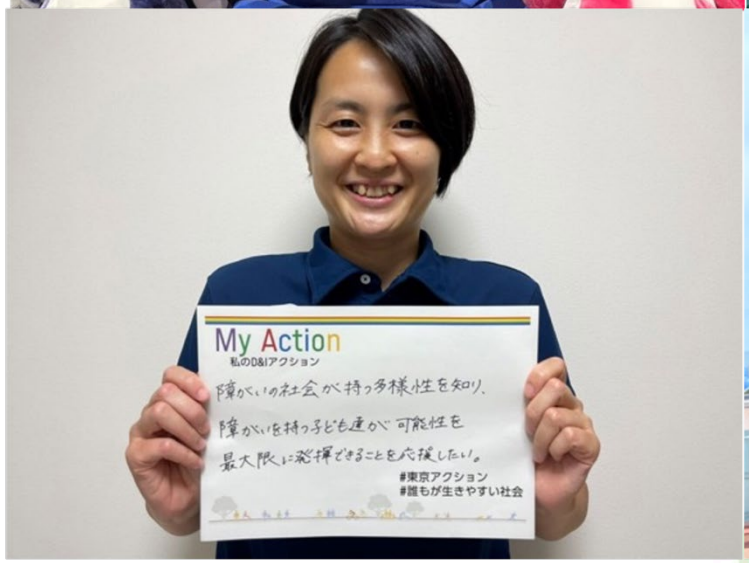
東京2020
組織委員会
スポーツ
ディレクター

山口尚秀選手

（パラ水泳
東京大会代表）

柴田亜衣さん

（元競泳選手、
オリンピアン）



川淵三郎

東京2020
選手村村長

東京2020D&Iアクションで育てる　私たちの社会

ユニバーサルデザインが
当たり前の社会を作ろう

ちがいを合わせて
力にしよう

毎日、
誰かの素敵を
見つけて、伝えよう！

差別を見かけたら、
見て見ぬふりをせず、
声をかける

それ、音が聞こえない人にも、伝わるかな、と考えてみる。
それ、見えない人にも、伝わるかな、と考えてみる。
それ、自分より小さい子にも、伝わるかな、と考えてみる。
それ、自分が言われたら嬉しいかな、と考えてみる。

いろんな国の言葉で
ありがとう／こんにちはを
言ってみよう

女の子はこう、
男の子はこう、と
決めてしまっていないかな？

やさしい言葉で
情報提供する

（参考）アクション例

➢ **全般**

- かけられるとうれしい言葉を積極的に使う。（「ありがとう」等）
- 決めつけたり、否定につながる言葉を避ける。（「普通は○○」「○○は常識」「○○は当たり前」等）
- 自分も多様性の一部であることを意識し、他の人の多様性を尊重する。
- 差別やハラスメントに気づいたら、そのままにしない。
- 会議等で毎回一度は自分の意見を発表するとともに、異なる意見も尊重する。
- 年齢、性別、役職などを問わず、すべての人に対して「さん」で呼び掛ける。
- 無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）があることを意識してみる。
- 人権や多様性に関するイベントを応援する。
- 職場における差別・ハラスメントに関して学んでみる。
- 性別、ライフステージ、障がい、疾病（がん等）など多様な人がいることを前提とした職場環境や制度をめざす。

TOKYO 2020

（参考）アクション例

➢ ジェンダー・ＬＧＢＴＱ

- 「男/女なのに」「男/女だから」等、性別で判断せず、その人自身を見る。
- 全ての人の性のあり方を大切にする。
- LGBTQ当事者の方に話を聞く研修を受講する。
- ユニフォームにおいて、男性はズボン、女性はスカートといった決めつけをしない。
- 会議やチームのジェンダーバランスに関心を持つ
- 女性やLGBTQのアスリートが自分らしくプレーできる環境をつくる。

➢ 障がい・心身機能

- 困っている人を見かけたら「お手伝いしましょうか」と声をかける。
- 点字ブロックの上に物を置かない。置いてあった場合は移動させる。
- 視覚・聴覚障がい者と会話をしやすい工夫をする。アプリなどのツールを活用する。手話を学ぶ。
- 多機能トイレやエレベーターを使うとき、周りに自分より必要としている人がいないか意識する。
- 障がいのある人とない人が、一緒にスポーツを楽しめる環境を増やす
- パラアスリートの競技力向上を積極的にサポートする。

➢ 世代・ライフステージ

- 地域や日頃の生活で、自分と離れた世代の人達と積極的にコミュニケーションする。
- 世代や役職だけで相手のことを判断しない。
- 様々なライフテージに合ったスポーツの参加方法を提供する。
- アスリートの引退後のキャリアアップに必要な環境を整える。

➢ 文化・習慣・出自

- 相手が自分が話す言葉を話せなくても、その人を避けず、参加しやすい雰囲気を作る。
- 様々な国の選手やスタッフと文化、習慣、言語、料理等を学び合う。その国の言葉で声掛けをする。

TOKYO 2020